



株式会社アドバンスト・メディア

代表取締役会長兼社長

鈴木 清幸

KIYOYUKI SUZUKI

音声認識のパイオニア企業として人とコンピュータとの高度なコミュニケーションを実現した株式会社アドバンスト・メディア。世界に誇る高度な技術でヒューマン・コミュニケーション・インテグレーション（HCI）を切り拓き、大きく躍進する同社の事業について代表取締役会長兼社長の鈴木 清幸氏が語った。

**人工知能の研究で出会った
音声認識の市場創成に尽力**

パソコンやスマートフォン、タブレットなどを操作し、活用するためには何らかの方法を用いて、人が機械に意思を伝達しなければならない。代表的なインターフェースとして挙げられるのはキーボードを使った入力だ。あらゆる文章の作成や、ネットで検索する場合にも、キーボードをたたき、文字を変換させる作業を日常生活の中で意識することなく行っている。IT機器を活用する際には、常にタイピングのスキルがつきまとっているとも言えるだろう。

「当社は人の話す音声言語をコンピュータによって解析する高度な技術である『音声認識』に特化したサービスを提供しています。水や空気のように、人が音声認識を当たり前のように利用できる世界を自ら創って参りました」(鈴木氏)

音声認識の誕生はおよそ60年前、単語認識ができるものがアメリカで開発されたという。1990年代には言葉の連続認識とテキスト化が実現した。

「私はもともと人工知能(AI)の研究・開発をしていました。当時、世界の先端を行く研究者たちと人工知能の普及活動中に出会ったのが、優れた音声認識の開発者チームでした。既に日本語を含む13カ国語の大規模語彙連続音声認識エンジンのプロトタイプが開発され、日本語バージョンを体験した私は、その認識の精度とスピードに感動しました。当時は人工知能の普及活動を日本で展開していましたが、まずは音声認識の普及が先と気づきました。これがきっかけとなり、日本における音声認識の市場を創り上げるため、1997年に当社を設立しました」(鈴木氏)

翌年の1998年には20社のコンソーシアムを結成。ベータ版を無償で

提供して検証と改良を重ねた上で、同社は「AmiVoice音声認識エンジン」として2000年7月に正式リリースした。

事前学習なしにスピードの変化やイントネーションの違いなどにも対応

従来の第二世代と呼ばれる音声認識技術では、マイクを通して長文を読み込ませるなど、認識させるための音声を事前に学習させる必要があった。そのため、誰の声でもすぐに認識できるわけではなく、話すスピードやイントネーション、アクセントの違いなどの課題も山積していたという。

「コンピュータが認識しやすいように、人が意識して発声しなければならないため、誰もが気軽に活用できるインターフェースではありませんでした。当社の『AmiVoice音声認識エンジン』は、事前学習の問題を解消し、スピードの変化、イントネーション、アク

高精度な音声認識技術を確立し、さまざまな分野で活用 広告

セントにも対応した第三世代の音声認識技術です。話す人を特定しない不特定話者による、スピードの変化、抑揚、アクセントの違いまでもカバーした、実用レベルの技術と言えます」(鈴木氏)

音声認識の精度が低ければ、結局はキーボードを操作して多くの部分を修正しなければならないという手間が発生する。キーボード入力をしのぐ高い精度に基づく操作性を実現することで、はじめて音声認識が実用化のスタートラインに達したと言える。「人は紙にペンで記録をする時代から、コンピュータという文明の利器を使い、極めて効率の悪いキーボードによる記録の時代を経て、いよいよ『声で書く』時代を迎えたのです」(鈴木氏)

**声で書いて、声で操作ができる
ハンズフリー・アイズフリー**

優れた音声認識技術の開発とともに

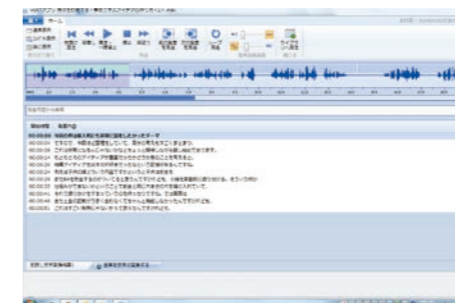


ハンズフリー・アイズフリーによる電子カルテへの入力シーン

に、これをどのように活用し、利便性が高められるのかを示すことで普及に大きな拍車がかかる。

「当社は議事録作成支援システムの販売を2003年にスタートしました。議事録の作成・保管が必要な自治体での採用を含め、現在100以上の導入例があります。議事録を声で書くビジネスはこれから、日本から始まり、アジアを経て世界に伝播して行きます。このため、『いつでも』『だれでも』『手軽に』『安価に』利用できるサービス、音声データ文字変換クラウドサービス『ボクスト』の提供を2013年11月より始めました。これはICレコーダーなどで会議やインタビューを録音し、そのファイルを『ボクスト』のアプリケーションで開いて文字化ボタンを押すと、音声テキストに変換されるものです」(鈴木氏)

間違いのある文字データを修正して100%正しい文章に変換していく速度は、キーボード熟練者・プロの約2倍から4倍だという。キーボード操

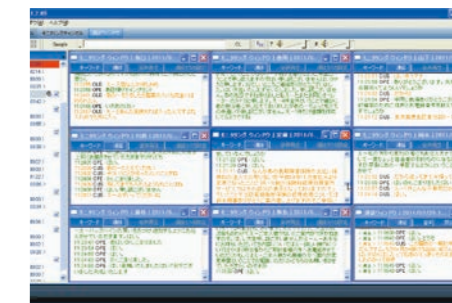


音声データ文字変換サービス「ボクスト」の認識結果(これを効率的に修正する)

作が苦手でもプロがキーボードで入力するより作業時間を大幅に短縮できる。

電子カルテの導入が進む医療分野でも音声認識の導入が進んでいる。「例えば、レントゲン、CT、MRI、PETなどの医療画像は国家資格を有する専門の読影医が読影分析レポートを作成し、画像とともに5年間保存というルールが世界的に決められています。音声認識ならば、画像から目を離さず、ほとんど手を使わずに声で書き、声で操作する『ハンズフリー・アイズフリー』が実現できます」(鈴木氏)

同社の音声認識ソリューションは、コールセンター、製造・流通・物流、営業支援、モバイル、教育などすでにさまざまな分野で活用されている。さらに今後は音声認識とは関連のなかった分野にも波及していくものと期待されており、同社の躍進はさらに続いていく。



コールセンターでの複数オペレーター同時モニタリングの例

株式会社アドバンスト・メディア

[本社]〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-4
[電話]03-5958-1031
<http://www.advanced-media.co.jp>

サンシャインシティ 文化会館6F

Company information

- 設立:1997年
- 代表者:代表取締役会長兼社長 鈴木 清幸
- 事業内容:AmiVoiceを組み込んだ音声認識ソリューションの企画・設計・開発を行う「ソリューション事業」。AmiVoiceを組み込んだアプリケーション商品を提供する「ライセンス事業」。企業内のユーザーや一般消費者へのサービスにAmiVoiceを提供する「サービス事業」



全国放送 毎週日曜/18:00~18:55



兵庫・大阪 毎週月曜/22:00~22:55



全国放送 毎週日曜/12:00~12:55



全ての選択には、フィクションに勝るドラマがある。
<http://kenja.jp/>